



令和三年度 卒業記念号

旅立ちの季節

関西金光学園

金光藤蔭高等学校

第七十四期生

令和四年三月三日

卒業生の言葉

特別進学

『卒業するまでに頑張ったこと』

一組 殿垣内 栄子
(桜井市立桜井西中学校出身)
相愛大学人文学部進学



私が特別進学コースで卒業までに頑張ったことは、各種検定試験や自分なりに覚えやすい勉強の仕方、テスト対策の工夫をし、勉学に励むことでした。各検定試験には対策講座がありました。過去問を何度も解き、何度も間違え、繰り返し復習しました。最終的には、英語検定と漢字検定の両方に合格しました。検定は進学を考えた際、非常に有利となります。また、将来にも役立つので検定試験を受けることをおすすめします。

次に、英語の勉強をしました。私は英単語を覚えることが苦手でした。単語カードを作ったり、家族や友達と英単語のクイズを出しあい、答えるというゲームで覚えたりもしました。そうすると楽しく学べるので早く身につきました。

私はこの春、文系の大学に進学します。このことを活かしながら勉強に励みたいと思います。

『継続することの大切さ』

一組 内海 優香
(大阪市立城東中学校出身)
京都産業大学外国語学部進学



私は、難関大学に進学すると胸に抱いて入学した。七限目までの授業、検定の対策講習、長期休暇中の講習など特別進学コースはとても大変だった。

私が本格的に受験勉強を始めたのは三年の五月頃だった。週四日の下校時刻ギリギリまでの入試対策、週三日の単語テストなど、心身ともにしんどくなり、受験勉強を辞めたくなくなった時期もあった。だが、それまで支えて下さった先生方に励まされ何とか続けることができた。公募推薦入試で受験した過去問と違い、本番での手応えはあまり良くなかった。今まで頑張ってきた勉強が正答に導いてくれた。合格発表日まで不安な毎日を過ごしたが、発表当日、外国語学部合格できた。私は受験を通して「何事も継続することの大切さ」を学んだ。自信にも繋がった。受験生活を支えて下さったみなさまには感謝の気持ちでいっぱいだ。大学生になっても継続することの大切さを忘れずに日々精進していこうと思う。

エンカレッジ

『私のやりたいこと』

二組 永峯 愛美
(大阪市立緑中学校出身)
大阪ECO動物海洋専門学校進学



私は小さい頃から絵を描くのが好きでした。なので、将来は絵を描く仕事に就きたいと思っていました。ですが高校生になり、進路について真剣に考えることが増えてから、仕事で絵を描きたくないと思うようになり、それが私には動物が好きだということもあり、動物関係の仕事に就きたいと思うようになりました。しかしなかなか学びたいと思う学校が見つからず、あと少しで三年生という事もあり焦っていました。そんな私が進路を決めることができたのは、本校の職業体験プログラムのおかげでした。進路が決まってからは志望理由書や面接の練習など色々大変なこともありましたが、先生方の協力もあり、無事合格することができました。

動物関係の仕事に就きたいと思うようになりました。しかしなかなか学びたいと思う学校が見つからず、あと少しで三年生という事もあり焦っていました。そんな私が進路を決めることができたのは、本校の職業体験プログラムのおかげでした。進路が決まってからは志望理由書や面接の練習など色々大変なこともありましたが、先生方の協力もあり、無事合格することができました。

金光藤蔭で得た沢山の経験を活かし、専門学校でも頑張りたいと思います。三年間大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

『立ち向かう勇氣』

二組 吉本 昂生
(大阪市立天満中学校出身)
阪南大学経済学部進学



私の高校三年間は悩みや不安など色々なことがあった。中学時代に病気がかかり、ほとんど通学できなくなりました。本校入学当初、そもそも学校に通うことができたのかどうかという不安を感じていました。二年生では人間関係に悩み、三年生では進路に向けての学力の底上げに必死でした。

正直、逃げ出せば楽なことは分かっていた。実際、何度も逃げ出しそうになった。しかし、同じように悩みや不安を抱く友人たちと知り合ったことで、私は逃げ出そうとは思わなくなりました。眼前の不安や逃げ出したい気持ちに屈することなく、高校生活を送る中でたくさんの経験を得ることができた。

逃げれば楽になる。しかし、前を向いて進むことで得ることのできた出会いや経験は、唯一無二のもので、これからの自分にとって強力な武器になるだろうと感じている。このような気持ちを与えてくれた友人たち、そして見守ってくれていた親や先生方にお礼を言いたい。ありがとうございます。

『三年間を振り返って』

三組 塩谷 真子
(枚方市立長尾中学校出身)
大阪こども専門学校進学



私の高校三年間は沢山の出来事がありました。私は中学時代に人間関係のトラブルから学校に行けず不登校となりました。体育祭などの学校行事にも参加できず、そんな自分を変えたいと思い、本校のエンカレッジコースに入りました。一年生の頃は、友人関係に悩み遅刻・早退や欠席などが多くなっていました。そんな中、先生や周りの友人に助けってもらい、二年生に進級することができました。二年生からは、将来の夢である保育士になるにはこのままではいけないと覚悟を決め、欠席や遅刻・早退を減らしました。三年生では多少の嫌なことがあっても、一年生の頃のように欠席すること無く、体調不良以外で休む事は全く無くなりました。それも周りの友人や先生のおかげです。高校生活も当初は苦勞しましたが、今ではとても充実した楽しい学校生活を過ごせたと胸を張って言えます。三年間本当にありがとうございました。

『夢への一歩』

三組 岩城 慶
(八尾市立成法中学校出身)
追手門学院大学社会学部進学



私は中学生の頃まで、人間関係の悩みにより不登校でしたが、本校エンカレッジコースに入學し、勉学に励んで順風満帆な学校生活を送れるようになりました。そしてそんな私に「自分と同じような経験をしている人たちの助けになる」という夢ができました。その夢に突き進むために大学進学を決意しました。

私は高校三年生の夏休みから本格的に受験勉強を始め、塾にも通いました。ゼロからのスタートだった私は、周りの誰よりも遅れをとっていることを痛感し、心が折れそうになったときもありました。しかし、大学入学後の自分の姿を想像し、家族や友人、先生方から励ましの言葉をもらい、乗り切ることができました。そして、この経験から目標に向かい努力することの楽しさと、応援してくれた人の存在のありがたさに気づくことができました。

私は「志望校合格」という目標は達成することができましたが、それはまだ夢への一歩を踏み出しただけに過ぎません。これからも感謝の気持ちで忘れず、夢に向けて勉学に励み続けたいと思います。



「IT ライセンス」

【成長できた三年間】

四組 伊藤 顕優

(東大阪市立上小坂中学校出身)
大阪経済法科大学法学部進学



中学生の頃、進学を考える際に、中学校の先生が「金光藤蔭は、自分の個性が見つけられるいい学校です」と教えてくれました。学校案内を見てこの学校ならいろいろな事ができそうだと考え、本校のITライセンスコースを受験しました。

入学してから特に力を入れて取り組んだことは、部活動です。和太鼓部の新生歓迎演奏をみて大変感動しました。私の目には先輩方の姿がかっこよく映り、憧れを抱き入部を決意しました。最初はしんどくて辞めてしまおうかと何回も考えましたが、その度、今までの自分を変えるために入部したことを思い出し頑張りました。そして、練習して発表に出られるようになって凄く嬉しかったです。IT関係の資格取得にもこだわりました。最初は結果が伴わず、検定試験に何回も落ちてくじけそうになりましたが、合格するために授業だけではなく放課後に残って勉強するなど様々な事に取り組み、三年間で多数の資格取得することができました。

アートアニメーション

【たくさんの思い出を胸に】

五組 笹尾 紅寧

(大阪市立天下茶屋中学校出身)
代々木アニメーション学院
声優タレント科進学



本校で過ごした三年間は、私にとっても貴重な時間でした。入学したばかりの頃は、新しい環境で学べる嬉しさと毎日の授業についていけるのかという不安がありました。

いざ学校生活が始まると、先生方の授業はとても分かりやすく、毎日楽しく授業に参加することができました。そして、中学の頃は成績が悪くクラス順位も低かった私が、定期考査で高得点をとることができ、高校三年間を通して勉強に取り組む楽しさを知ることができました。また、体育大会や修学旅行などの学校行事については、新型コロナウイルスの影響で変更や中止になったものもありましたが、先生方がたくさん考えて計画してくださり、友人と一緒に精一杯楽しむことができました。

多くの思い出が詰まった高校生活が終わりを迎えることに少し寂しめを感じますが、皆それぞれ別の場所と同じように頑張っているのだと思うと、私も勇気が湧いてきます。今後仲間と切磋琢磨しながら、夢を叶えるために全力で頑張ります。

ライフクリエイティブ

【三年間を振り返って】

六組 伊藤 悠弥

(大阪市立三稜中学校出身)
辻学園調理・製菓専門学校進学



私は、本校でもとても充実した三年間を過ごすことができました。調理の授業を受けたことで、本校のライフクリエイティブコースを受験しましたが、入学当初は授業についていけるのか、友人はできるのかなど、とても心配していました。しかし、同じ志を持った友人がたくさんでき、その不安はすぐに解消することができました。

学校生活に関しては、二年次からより専門的なことを学ぶスペシャルティークースに入るとして、二年次には無事にスペシャリティーコースに入ることができました。また、成績優秀もとることができたため自分にも自信を持つことができました。

調理の授業が本格的に始まると新たな発見や課題が見つかり、探求心を持って取り組むことができました。料理のジャンルで食材の切り方が違うため、包丁の扱い方や細かな技術を身に着けることは難しかったです。丁寧な指導と友人の助けがあり、自分でも感じ取れる程に成長することができました。

私は、本校を卒業後、夢を実現させるため辻学園調理・製菓専門学校に進学します。将来の夢を叶えるために西洋料理についての知識や技術を学び、頑張りたいと思っています。

「三年間で成長できたこと」

七組 西森 翔太郎

(大阪市立花乃井中学校出身)
大阪運輸株式会社就職



今振り返ってみると私の高校三年間はとても充実したものであったと感じています。入学当初はわからないことが多い中で、クラスメイトと上手く話せるかも不安でした。だんだんと友達ができ、会話できる相手が増えてくるとその不安も消えていき、良いスタートをきることができました。中学の時はあまり勉強に取り組んでこなかった私ですが、高校では勉強への意識を高めることができました。勉強についていくために授業中は必死に集中して取り組みました。その結果、中学までは考えられなかったような良い点数が取れ、とても嬉しい気持ちになりました。体育大会や藤蔭祭などの学校行事ではクラスメイトと団結して取り組み、とても良い思い出になりました。

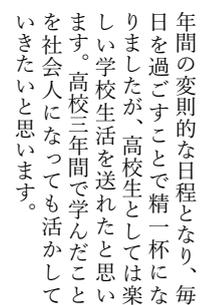
順調に思えた高校生活も新型コロナウイルスの影響により、すっかり変わってしまいました。分散登校になったり学校行事が学年別になったり、昼食も友達とにぎやかに食べることもできなくなったり、思い通りの生活ができなくなってしまうようになりました。不安でいっぱいになった時もありましたが、今となれば慣れて普通の生活になりました。

高校生になって最も学んだことは責任を持つって行動することの大切さです。三年生で就職活動をする中、社会人に近づいていって社会人が持たなければ

「私の思い出」

八組 宇田川 みづき

(大阪市立城東中学校出身)
履正社スポーツ専門学校
理学療法科進学



金光藤蔭に入学し、初めはこの高校ですって行けるか不安でした。ですが、クラスの皆が気さくに話しかけてくれて、すぐに友達もできました。一年生では楽しみにしていた体育大会や文化祭など色々な行事ができました。しかし二年生では最初から休校で、学校が始まったとしても、しばらくはクラスの半分の人達としか顔を合わせる事ができませんでした。やっと皆に会えた時はとても嬉しかったです。行事も中止ばかりでしたが、修学旅行も延期になりました。修学旅行も延期になりました。修学旅行も延期になりました。

三年生に進級し受験の年になりました。いろいろ悩み、忙しくて大変でしたが、その分進路が決まった時はとてもうれしかったです。いろいろな行事は、相変わらず普通にはできませんでしたが、七月に延期されていた修学旅行もまた延期になり、今度こそ、もう行けないかなと思っていました。十二月にやっと沖繩へ行くことができました。連れて行ってくれた先生方にはとても感謝しています。大阪とは違う、きれいな沖繩の海でジェットスキーに乗ったり、魚にエサをあげたり、友達と海に向かって歌を歌ったり、三年間で一番の良い思い出です。

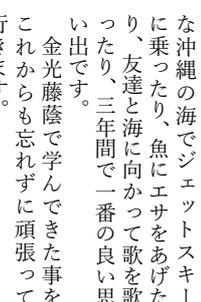
金光藤蔭で学んできた事をこれからも忘れずに頑張っていきます。

トップアスリート

【三年間での成長】

九組 河内 ひなた

(大阪市立平野北中学校出身)
大阪国際大学短期大学部進学



私は、高校三年間で部活動のバスケットボールに打ち込んできました。女子バスケットボール部は、私たちが一期生でした。先輩がいなかったため、最初は悩むことがたくさんありす。でも、同級生の仲間とともに何度も話し合いを重ね、協力して日々の練習に励みました。その結果、目標としていた創部三年目で大阪ベスト四、近畿大会出場という結果を得ることができました。目標を達成する上で、先生方や仲間を信じて頑張ることの大切さを学びました。バスケットボールという競技を通じて競技力だけではなく、あいさつや礼儀を含め、人間性の部分を大きく成長させることができたと思っています。また、部活動と勉学の両立もこの三年間で身につけ

ました。その結果、目標としていた創部三年目で大阪ベスト四、近畿大会出場という結果を得ることができました。目標を達成する上で、先生方や仲間を信じて頑張ることの大切さを学びました。バスケットボールという競技を通じて競技力だけではなく、あいさつや礼儀を含め、人間性の部分を大きく成長させることができたと思っています。また、部活動と勉学の両立もこの三年間で身につけ

ることができました。
私は短期大学に進学しても
バスケットボールを続けたい。
短期大学は高校よりも時間が
短く、二年という限られた時間
ですが、高校三年間の経験を活
かし、文武両道に励んでいき
たいです。そして、今以上に成長
した姿を見せられるよう頑張
っていききたいと思っています。

「三年間で学んだこと」

九組 河野 颯斗
(守口市立梶中学校出身)
大阪国際大学経営経済学部進学



私は金光藤蔭高校での三年
間、バスケットボールという競
技に打ち込んできました。競技
力の向上だけではなく人間性
の部分も学び、成長することが
できたと思います。

その中で、私が三年間で身に
つけた力は、「自分の立場を考
え、行動を慎む力」です。私は
1ームの副キャプテンに任命さ
れ、キャプテンを支えることは
もちろんのことですが、人の上
に立つ者として自覚を持った
行動を、また私生活や学校生活
において後輩の見本となる行
動をしなければならぬと思
いました。初めは、周りに流さ
れてしまう部分もありました。
副キャプテンという立場を考
えずに行動し、監督に注意され
ました。その時に、自分の立場
をもう一度考え、周りに流され
ることなく、自分の意思を持つ
て行動しようとして決心しま
した。部活動の場だけではな
く、勉学にも力を入れ、三年間
成績優良をとることができま
した。学校生活の面でも、チー

ムの見本になることができた
と思います。
監督や仲間と信頼関係を築
き上げることが難しく、簡単な
ことではありませんでしたが、
自分の行動によって信頼を得
るということを学びました。

この三年間で学んだことは、
大学進学後や社会に出た時に、
必ず役に立つと思います。本校
での学びを最大限に活かし、こ
れからも頑張っていきたいと
思います。

「さらなる成長をめざして…」

九組 的場 明
(八尾市立久宝寺中学校出身)
トヨタ自動車株式会社就職



私はこの三年間、特に部活動
のソフトボールを頑張ってきた
ました。下級生の頃は、目標と
することができず、悔しい思いをた
くさんしました。日々の練習の
中で、技術面の向上だけではな
く、仲間とのコミュニケーション
を大切にすることが、勝つた
めにどのようなことが足りな
いのかを考え日々の努力を怠
りませんでした。そして、三年
生の最後の大会では、今までの
悔しい思いや頑張ってきたこ
と全てをかけて臨みました。そ
の結果、大阪で優勝し、目標と
していた全国大会に出場する
ことができました。高校三年間
では、あいさつや礼儀をはじめ
さまざまなことを、学ぶことが
できました。

春からは実業団へ就職し、選
手としてソフトボールを続け
ます。大学や短大、専門学校に
進学する仲間よりは少し早く
社会人となるため、今まで以上

に自覚を持った行動を心がけ
ていきたいです。そして、私を
支えてきてくださった家族や
先生方に恩返しができるよう
に頑張っていきたいと思いま
す。

「三年間で学んだこと」

十組 鎌倉 颯太
(大阪市立旭陽中学校出身)
愛知工業大学工学部進学



私はこの三年間、周りで支え
てくださった方々から、たくさ
んのことを学ぶことができま
した。

部活動ではラグビー部に所
属し、仲間とともに支えあい、
苦しい練習や合宿を経験し、遅
しくなっただけです。また、
顧問の先生方からは、ラグビ
ーにおける技術面だけではなく、
ミーティングやメンタルレ
ーニングを通して精神面の成
長、チームメイトとのコミュニ
ケーションの大切さなどを教
えていただきました。これから
社会人になっていく上で大切
なことを学ぶことができた
と思っています。

学校生活では授業や行事、校
外での活動で自分の知らない
ものに触れたり、知らない世界
を体験したりすることができ
ました。その度に新しいことを
学ぶことができ、良い経験がで
きました。

三年間の中で多くの人と出
会い、様々なことを学び、高校
生活は本当に充実した日々で
した。これからも仲間や先生方
への感謝の気持ちを忘れず、本
校で得た経験を必ず役に立て、
大学や社会に向かって進んで
いきたいと思っています。

3学年教員の言葉

「最後までやり遂げること」

三年生部長 一組副担任
四方 健二



三年生の皆さん卒業おめで
とうございます。保護者の皆様
お子様のご卒業、誠におめで
とうございます。これまでのご苦
労を思い、心からお祝い申し上
げます。

三年間一緒に過ごしてきた
中で、立場上怒っていることの
ほうが多かったかもしれませ
ん。しかし、三年生になってか
らは大きな声を上げること
ほとんどなくなり、本当に成長
したと感じる事が多くなりました。
これからは何年後か先に
私の伝えたかった事の本質を
少しでも解ってくれたら更に
成長した大人になってくれて
いるかなと思っています。

私は、「絶対にやめるな」「逃
げるな」という言葉をよく使
います。高校三年間、辞めたい
と思いがながらも辞めなかつた
からこそ今日という日を迎える
ことが出来たのです。次のステ
ージでも、後悔するような辞め
方だけは絶対にしないでくだ
さい。辞めそうになった時、逃
げ出しそうになった時、もう一
度考え直してみてください。そ
ういう時にこそ金光藤蔭高校
で学んだこと、友達や先生のこ
とを思い出して頑張り抜いて
ください。金光藤蔭の卒業生と
して立派に活躍されることを
心より祈っています。今日帰宅
した時には「卒業させてくれて
ありがとう」と家族に言える人
間に成長してくれていると信
じています。

最後に、保護者の皆様には、
本校教育へのご理解とご協力
を頂き厚くお礼申し上げます
と共に、お子様の今後のご活躍
とご多幸をお祈り申し上げます。

「約束の続き、夢の途中」

一組担任
辻尾 鈴路



保護者の皆様、お子様のご卒
業おめでとうございます。終わ
ってみれば、あつという間の三
年間だったと思います。皆様
のご協力のおかげで無事に今日
を迎えることができました。心
より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめで
とうございます。高校三年間
はどうでしたか。充実した三年間
でしたか？もう少し色々なこ
とができたと思っている人は
いませんか。何かを始めるのに
遅いということはありません。
思った時に始めてください。ぜ
ひ、色々なことに挑戦してみ
てください。たくさん失敗してく
ださい。そして、必ず成功する
まで諦めないでください。それ
が、あなたたちの経験値にあり
ます。経験値は、あなたたちの
一生の財産になります。
これから、それぞれの道を歩
んでいきます。厳しい道のり
です。常に、感謝の気持ちを忘
れないでください。あなたたちは
誰かに支えられています。普通
に生活できていることにも感
謝してください。

「身につけたもの」

二組担任
植田 崇行



卒業生のみなさん、卒業おめでとう。みなさんの高校生活三年間という大切な時期に関わられたこと、うれしく思います。ところで私は古代中国を扱った歴史小説が好きで、宮城谷正光さんという作家の『楽毅』という作品が特に気に入っています。物語は冒頭、若き主人公楽毅が丘の上で「人が見事に生きるとはどうか」と自らに問いかける場面から始まります。楽毅は名将の中の名将として歴史に名を残すほどの人物ですから、当然「見事に生きた」と言えるのだろうかと思えます。しかしこの問いは考えれば考えるほど難しいものです。見事に生きるとは、社会的成功を取めることなのか。それとも自分なりに充実した人生であれば、見事と云っていいのか。評価は他人がくだすのか、自分で判定するものなのか。この世に最後まで生き切った経験のある人はいません。だから答えは誰にも分からず、これでいいのかと自問自答しながら人生を歩んでいるのだと思います。

そんな風に歩んでいく時に、金光藤蔭で頑張ったこと、友人と触れ合ったこと、先生に怒られたこと、そんなことが柱となって、みなさんを支えてくれるように願っています。

「終わりは始まり」

三組担任
村嶋 朱里



ご卒業おめでとうございませう。いざ卒業となると、この三年間はとて長かったと感じています。人は立て続けに記憶に残る刺激的な出来事が起きると、その期間は長かったように感じるそうです。初めのころは、些細なことから大きなものごとで発展したり、傷ついたり、「教室に行きたくない」と言ってみたり、というようにみなさんの出来事がありました。それでも三年生になって、自分の思いをきちんと話せるようになっていたり、気持ちの切り替えができるようになっていたり、そして何よりも自分で目標を決め、進路実現する姿にはとても成長を感じました。そして、その姿に励まされてこの日を皆さんと一緒に迎えることができました。

これまで嫌だと思ったことはたくさんあったと思います。授業や試験や提出物など…。この先も嫌なことに直面すると思います。が、今までのように皆さんのことを理解したうえで接してくれる先生はいません。嫌なことを悪いことと思わずに、ぐつと我慢して自分の力で乗り越えていってください。そのたびに成長できるはずですよ。卒業はスタートラインです。お互い頑張りましょう。

「卒業生のみんなへ」

四組担任
宇藤 洋平



保護者の皆様、お子様のご卒業まことにおめでとうございませう。今思えば、あつという間の三年間でしたが、保護者の皆様のご協力のおかげでこの日を無事に迎えることができたと思っております。深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん卒業おめでとうございませう。高校生活の三年間はどうかと思いましたが、次のステージに進むための準備は万全ですか。もう少しやっておけばよかったと思っている人も中にはいるのではないのでしょうか。今からでも間に合います。夢を見つuckerことのできた人は、その夢に向かって突き進んで下さい。これからという人も、先は長いですが、じっくり、落ち着いたペースで歩いて下さい。例え遠回りになったとしても得られるものが数多くあるのではないかと思います。

また、これから皆さんはそれぞれの道に進んでいきます。ここでできた友人、感謝の気持ちを忘れずにそれぞれの道を歩んで下さい。最後になりましたが、皆さんのご健康とご多幸をお祈りしております。

「強さと自信を持って」

五組担任
稲井 優香



ご卒業おめでとうございませう。皆さんにとって高校生活の三年間はどんなものになったでしょうか。多くのことを知り学び、時には悩み苦しむ、それぞれに残る思い出ができたことでしょう。

二年生の頃から、新型コロナウイルスの影響で普段通りの学校生活を送ることができず、行事やクラブの大会などの中止が相次ぎ、さまざまな場面で我慢しなければならぬことが増えました。次はいつクラス全員・学年全体で集まれるのか、修学旅行は本当に行けるのか、先が見えない状況が続きましたが、皆さんがそれぞれの進路活動や勉強、クラブの練習などを投げ出さず、一生懸命に取り組む姿はとても立派で、いつも私自身が皆さんに励まされ支えてもらっていました。ありがとう。

これからの長い人生、楽しいこと嬉しいことだけでなく、時には苦しいこと辛いこともあるかもしれません。それでも皆さんがコロナ禍にも関わらず、挫けず前向きに過ごした強さを忘れずに、自信を持って自分の人生を歩んでください。皆さんの未来が笑顔溢れるものでありますよう、心から願い応援しています。

「痛いのが生きているから」

七組担任
秋山 峰史



人生には人との出会い以外に、言葉との出会いもあります。私が好きな詩を紹介いたします。元々は相田みつをという詩人の作品らしいです。

痛いのが生きているから
転んだのは歩いたから
迷ったのは前に進みたいから
逃げ出したのはたまたまかっているから
悩んでいるのは変わりたいから
苦しいと思うのは楽しさを知っているから
幸せなのは頑張ったから
あなたたちのこれからの人生に幸あれ

どんなことでも、最初から「できる」人間はいません。どんなに辛くてもあがき続けた人に成功の日がやってくるのではないのでしょうか。だから君たちは、自分の人生を途中で諦めちゃいけない。そして君だけの道を、自分のモノになるまで「やり続けて」ください！
君たちのより一層大きく成長した姿を、同窓会で見られることを楽しみにしています。
卒業おめでとう。

「ありのまままで」

八組担任
真田 義久



この原稿を書いている今日は、原稿のしめ切りがあり、一月十日。明日が三学期始業式。今はまだみんなが卒業できるか心配なだけで、とても「卒業おめでとう」という気分ではありません。コロナのこともありし。とりあえず今日三月三日、卒業できた人に贈る言葉を考えてみました。およそ五十五年いろうんな人生を見てきた俺が思う、これから先の人生をハッピーに過ごせる人と過ごせない人。あいさつがしっかりできる人。ちゃんとあやまれる人。人のせいにしない人。ありがとうって言える人。本当の自分に向き合っていない人は永久に何かに振り回されるだけです。本気でお金より大事なモノがないと思っている人。

世の中には自分の知らないことがいっぱいあるって知っている人。あまり一度にたくさんものを守ることができない。傷つくことだけ上手になって、他人を傷つけることはおかない。自分が幸せのために他人を犠牲にする人と、他人の幸せが自分の幸せになる人。星や花を見て「きれい！」と思えたらいいな。

自分に正直に生きていくことは大変だけど、一度しかない人生だし、明日がどうなるかわからないから、後悔しないように生きてください。一日一日を大切に。

それでは、みなさん、さようなら。

「応援される人 愛される人」

九組担任
上森 由貴



ご卒業、おめでとうございませう。みなさんにとって、高校生活はどのような思い出が残っていますか？私はこの三年間、みなさんとさまざまなところで関わる事ができ、とても楽しかったです。時には厳しく注意をしたこともありましたが、一人ひとり素直に受け入れ、少しづつ変わろうとする姿勢が見られました。また、学年を重ねるごとに成長していく姿を見て、とても嬉しい気持ちになりました。

春からそれぞれの道へ進むみなさんに、「周りから応援される人、愛される人」になってほしいと思います。そのためには、日頃の言動が全てです。きちんと挨拶ができる、人の気持ちがわかる、困った人がいたら助けられる、何事にも一生懸命取り組む、失敗したら謝ることができる、このような当たり前のことを日頃から大切にすることで、「周りから応援される人、愛される人」になるのではないのでしょうか。自分なりの目標を見つけ、何事にも前向きにそして全力で取り組んでいく。みなさんの活躍を期待しています。自分の道を切り開いていってください。三年間ありがとうございます。

「夢に向かって頑張れ」

十組担任
西村 崇志



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。長いようで短かった三年間、金光藤蔭での高校生活は充実したものでしたか？友人、家族、先生など多くの人と関わる中で、様々な思い出ができたことだと思います。

これから皆さんはそれぞれの道に向かって進んでいきます。その道の先では決して良いことばかりではなく、たくさん苦難や困難が待っていると思います。しかし、難しいことが「有る」人生は「有難い」人生です。難しいことが「無い」人生は「無難」な人生です。辛い思いをしても、難しいことが「有る」ということは「有難い」と考えて立ち向かってください。負けずに挑戦し、乗り越えていくことによって成長し、立派な人間になることができます。と思います。

今後自分の夢に向かって頑張ってください。今よりもさらに成長した姿を見られることを楽しみにしています。卒業おめでとうございます。

「将来を生き抜く力」

二・三組副担任
木下 久美子



三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。私は数学の授業や進学担当として、皆さんと共に過ごしてきました。

今の世の中はコロナもですが、知識や学力だけでは太刀打ちできない、想定外のことが起きる時代です。違いを認めていかに共生できるかが、未来を生き抜く鍵になります。

担任をしているとき、「自分がされて嫌なことは人にしない」ということをクラスのルールにしました。困っている人を除外しない。これを守れば自分で考え、相手の立場に立って友達を大切にすることに育ちます。トラブルを起こしても、そこからどうやり直すか、柔軟性が鍛えられます。また、四つの力「人を大切にできる力」「自分を表現する力」「自分の考えを持つ力」「チャレンジする力」も大切にしたいと思っています。

将来を生き抜く力は、失敗し、考え、行動して学んでいくもの。大人でも間違えることがあります。そうしたら、大人もやり直しをすればいい。勉強でも、わからないことを知りたいと思えばこそ、学ぶ喜びを自分で獲得していくと思います。

一日一生だと思つて、大切に過ごしてください。皆さんの健康とご多幸をお祈りしています。

「卒業する皆さんへ」

進路部長・四・五組副担任
村田 浩



高校三年生の時、私は自分の進路について悩んだ末、芸術大学への進学を選択した。かねてから興味のある分野ではあったが、専門的に学んだことがなかったで、その先社会に出た時に就く仕事のことわからず、未知の世界に飛び込むことへの不安があった。しかし自分を活かすことのできる道を探した結果の選択だった。今思えばそれは「他人に映る自分」から初めて離れようとした瞬間だったのかもしれない。

「自分が活躍できる道」と信じていた。しかし同じような人間が他にも沢山いることに大で気付いた。「自分にしかできないこと」を探した私は答えをなかなか導き出せず、好きだったことが苦しく感じることもあった。

私は現在に至るに何者に成れた訳でもなく、人より優れた能力が身に付いた訳でもない。ただ、自分の好きだと思える分野で人と関わり、社会とつながり生きていく。自分自身と向き合い、節目で答えを探し、もがきながら生きてきた。これが人生であるなら、「誰と比べる必要もない自分だけの作品」とでもいえるのではないかな。

「出会いは成長の種」

六・七組副担任
神野 友哉



皆さん、ご卒業おめでとうございます。

副担任として、また数学の教科担当として、この学年に関わることができて嬉しく思っています。

さて、皆さんはこれから、大学や専門学校に進学する人や就職して一足先に社会人になる人がいて、自分自身で選んだ道に進みます。人生はそれぞれ人と同じという事はありません。幸せに思うときがあれば苦しい瞬間もあると思います。しかし、全部ひっくるめて、あなたの人生です。

人生とは、数学のように答えがあるものではありません。一つの山があれば、そこにはたくさん道の道があります。どの道を選んでも山頂に着くことには変わりませんが、険しい道を選んで山頂にたどり着いた方が達成感は大きくなります。

だから、いろいろな人と出会い、いろいろな経験をしてください。そしていろいろな感情を抱いてください。人はそうやって成長していきます。ダメだと思つても決して諦めたり投げ出したりしないでください。苦しい状況だからこそ、そこに楽しみを見出してください。諦めずに成し遂げれば、きっと先の未来には素敵なことが待っています。

私も含めて、ここにいる皆さんがあなたの仲間です。また何年かして同窓会で元氣な姿を見せてください。私は、また皆さんに会えるその日を楽しみにしています。今日までの日を忘れずに、これからのそれぞれの毎日を頑張ってください。私は皆さんを応援しています。

『卒業おめでとうございます。』

八・九組副担任
佐々木 嘉弘



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
本校での三年間を終え成長し獲得してきたものがたくさんあると思います。皆さんが、この経験を得て自分らしく素晴らしい道を歩まれることを願っています。



『夢に向かって』

十組副担任
山口 裕久



三年生諸君、卒業おめでとう。高校生というのは、子どもから大人への過渡期です。日本でも十八歳に選挙権が与えられ、成人として扱われることも増えてきます。しかし、学校に通い、学校という皆の中にいる間は、家族や友人、そして教員に守られることも多くあります。これからは、高校を飛び出し大きな社会の中で生きていかなければなりません。誰かが、自分の行動に対して責任を負ってくれ、守ってくれることはもうないのです。君たちは自分の行動に責任を負わねばならない大人になったのです。

また、大人になるということとは現実に向き合うということでもあります。現実と対峙すれば、どうしても「夢」を諦めたいと思う時があると思います。しかし、現実の対義語は理想であり「夢」ではありません。決して夢を諦めず、一步一步進んでいって下さい。

これからの活躍を期待しています。

卒業生に向けて

『お互い様という言葉を抱き』

PTA会長
田中 健太



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、様々な制限がありました。その中で何ができたかを試行錯誤された高校生活だったのではないのでしょうか。

さて、これからそれぞれの道歩んでいくことと思います。人生は山あり谷ありです。これからの人生、年を重ねるにつれ、お互い助け合いの場が減っていくように感じるかもしれません。そんなときに本校で出会った仲間や友人、先生方がきつと皆さんの助けになります。自分の力で乗り切ることも大切ですが、同じくらい大切なことは、助けてほしいと思ったときに自分の言葉で周りに「助けてほしい」と伝えることです。日本には昔から「お互い様」という素晴らしい言葉があります。困ったことは「お互い様」の気持ちを持ち、自分にも周りにも優しい人生を歩んでください。

卒業生の皆さんに素晴らしい未来が訪れることをお祈りして、お祝いの言葉とさせていただきます。

『卒業生に向けて、理想を現実に』

同窓会会長
西口まゆみ



春のおとずれを待ちわびている今日の日卒業を迎えられた皆さん、保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。高校生活三年間、有意義な学校生活を送ることができましたか？「たくさんできました」と答えてくれると思います。未だに猛威を振るい、終息の目処がたたないコロナ感染の渦中、自粛や行事の縮小と経験したことのない日々を過ごしたことは、これからの人生の糧になると信じています。

世界にたった一人の自分を大切に、自分より先ず人のことを思って、相手より先に笑顔の真心のあいさつをして、夢と希望と志を持って人生の坂道を上ってください。夢とは描くこと。希望とは前向きになること。志とは覚悟することです。次の目標に向かって邁進してください。また、同窓会にも参加していただけることを願っています。

編集後記

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様、お子様の新たな門出にお祝い申し上げます。また、この特集号を作成するにあたり、多くの方々にご協力をいただきました。この場をおかりしてお礼申し上げます。

今年度も新型コロナウイルスが拡大するなか、本校では皆さんの命と健康を第一に考え、万全の注意を払いながら感染症対策に取り組み、教育活動を推進して参りました。

これから先も多くの変化を求められることと思いますが、本校を卒業する皆さんなら大丈夫だと信じています。本校での学びと出会いが、皆さんのこれからの人生の礎となることを願っております。

胸を張り、それぞれの新たな場所での活躍できることを、三年の教員をはじめ、教職員一同応援しております。

